

**福生市高齢者・障害者生活実態調査  
報告書**

平成 23 年 9 月

福 生 市



# ～目次～

## I 調査の概要

1 調査の目的	3
2 調査の方法	3
3 回収結果	4
4 報告書の見方	4

## II 調査結果のまとめ

1 在宅要介護者	7
2 施設入所者	8
3 一般高齢者	9
4 身体・知的障害者	10
5 精神障害者	12

## III 在宅要介護者

1 ご本人（あて名の本人）について	15
2 介護保険の申請とケアプランについて	19
3 住まいと収入について	22
4 本人の身体や介護の状況について	24
5 介護サービス（介護予防サービスを含む）の利用状況について	31
6 現在、介護サービスを利用していない方について	55
7 高齢者福祉サービスについて	56
8 主な介護者がお答えください	58
9 災害対策について	64

## IV 施設入所者

1 入所されているご本人のことについて	72
2 介護保険の要介護認定と申請について	79
3 介護サービスについて	80
4 本人の身体や介護の状況について	86

## V 一般高齢者

1	ご本人のことについて	93
2	住まいと収入について	95
3	本人の健康状態などについて	100
4	本人の日常生活について	105
5	介護保険について	112
6	在宅サービスについて	117
7	災害対策について	120

## VI 身体・知的障害者

1	身体障害者手帳や愛の手帳をお持ちのご本人のことについて	127
2	日常生活について	135
3	現在のお住まいについて	147
4	健康状態について	148
5	障害者福祉サービスについて	156
6	在宅サービスを利用している方について	162
7	施設サービスを利用している方について	163
8	その他の福祉サービスについて	164
9	災害のときなど緊急時の対応について	169

## VII 精神障害者

1	ご本人のことについて	177
2	日常生活について	182
3	現在のお住まいなどについて	187
4	健康状態について	190
5	福祉サービスについて	197
6	就労意欲について	206
7	収入について	207
8	災害のときなど緊急時の対応について	210





## ◆ 調査の概要

### 1. 調査の目的

本調査は、高齢者・障害者の生活実態及び福祉施策に対する要望等を把握し、福生市介護保険事業計画（第5期）及び福生市障害福祉計画（第3期）を策定する際の基礎資料を得ることを目的に実施しました。

### 2. 調査の方法

- (1) 調査地域 : 福生市全域
- (2) 調査基準日 : 平成23年5月1日現在
- (3) 対象者及び人数 : 下記の表を参照

対象者	抽出方法	対象者数	配布回収
在宅要介護者 (要支援・要介護被認定者)	福生市の介護保険被保険者で、介護保険の要支援・要介護に認定されている方全員	969人	郵送配付 郵送回収
施設入所者 (要支援・要介護被認定者)	福生市の介護保険被保険者で、介護保険制度により施設に入所している方全員	404人	施設へ依頼 郵送回収
一般高齢者	在宅要介護者、施設入所者、身体・知的障害者以外の65歳以上の一般高齢者男女（抽出）	2,156人	郵送配付 郵送回収
身体・知的障害者	身体障害者手帳（1級～6級）、愛の手帳（1度～4度）の所持者全員	1,456人	郵送配付 郵送回収
精神障害者	施設、医療機関等へ依頼し、協力を得られた人	142人	施設等へ依頼 郵送回収
合計		5,127人	

### 3. 回収結果

対象者	配布数	有効回収数	有効回収率
在宅要介護者(要支援・要介護認定者)	969	489	50.5%
施設入所者(要支援・要介護認定者)	404	174	43.1%
一般高齢者	2,156	1,354	62.8%
身体・知的障害者	1,456	750	51.5%
精神障害者	142	90	63.4%
合計	5,127	2,857	55.7%

### 4. 報告書の見方

- 集計結果は、少数第2位を四捨五入して、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対するそれぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフおよび表のn数は有効回収数（集計対象者総数）、（SA）は単数回答の設問、（MA）は複数回答の設問、（数量）は数字の直接回答の設問を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。



## Ⅱ

## 調査結果のまとめ

---



## 1. 在宅要介護者

- ・対象者の属性では、女性が6割を占め、かつ、年齢においては5割強が80歳以上となっています。
- ・住まい方としては、ひとり暮らしは27.8%となっています。
- ・要介護度については、「要介護2」との回答が23.7%でもっとも多く、次いで「要介護3」が19.6%、「要支援2」が16.4%となっています。
- ・現在の住まいで困っていることでは、「玄関回りの階段や段差」(25.4%)、「風呂が使いにくい」(17.6%)などの回答が目立ちます。
- ・高齢者の生活に配慮した公的住宅への入居意向としては、5割強は今の住宅のままでよいと回答していますが、「今すぐに入居したい」(9.0%)、「今はいいがそのうち入居したい」(15.5%)との回答も見られます。
- ・寝たきりになられている方は全体で8.9%、「1年未満」と比較的最近なられた方は全体の2.5%となっています。
- ・介護が必要になった直接の原因としては「脳血管疾患」が約2割となっています。「認知症」との回答は、75歳以上で1割を超えています。
- ・地域包括支援センターについては6割強が内容を知らないと回答しています。利用経験がある人については全体の4割弱となっています。
- ・介護保険サービスの全体の満足度については、7割弱が『満足』していると回答しています。個々のサービスについては「居宅療養管理指導」(35.0%)、「認知症対応型通所介護」(54.6%)などは利用者が少ないですが、『満足』との回答が他のサービスに比べ低く、「短期入所生活介護」では『不満』の回答が約2割となるなどの傾向が見られます。
- ・今後利用したいサービスでは、「短期入所」が2割を越え高く、次いで「介護老人福祉施設」(16.4%)が続いています。
- ・介護保険施設や医療機関への入所申し込みをしている割合は約1割で、そのうちの約半数は「介護老人福祉施設」への入所を希望しています。
- ・介護サービス利用料の負担感については、「負担を感じている」層は全体の3割弱おり、要介護3以上では特に高い回答となっています。
- ・介護サービスを利用して良かったこととしては、「家族の介護負担が減った」がもっとも多く、中でも要介護3以上では半数を越えて高い回答となっています。
- ・移送サービスの『利用経験のある人』は全体の約2割おり、その主な理由としては「施設などへの通所のため」が44.7%、「通院のため」が37.2%となっています。
- ・「成年後見センター福生」の名称も内容も知っている人は15.1%、「成年後見制度」は20.9%、「市民後見人」は8.2%、「地域福祉権利擁護事業」は7.6%となっており、今後も周知の必要性があります。
- ・災害発生時に自力で避難するのが困難であるとする割合は8割を超えています。また、そのうちの約2割が「身近に手助けをしてくれる人がいない」と回答しています。
- ・「災害時要援護者登録制度」を知っている人は全体の約3割、登録も行っていると回答した人は11.5%です。

## 2. 施設入所者

- ・対象者の属性では、6割が介護老人福祉施設に入所しています。また、回答者全体のうち約8割が女性を占めています。年齢では9割が後期高齢者（75歳以上）です。
- ・施設への入所年数は「1年未満」が25.9%となっています。
- ・入所した理由では「家族での介護ができないため」が74.1%で大半の方の意見となっています。
- ・地域包括支援センターについては7割強が内容を知らないと回答しています。利用経験がある人については全体の約4分の1です。
- ・現在利用している施設のサービス全体の満足度では、8割強が満足していると回答しています。
- ・「成年後見センター福生」の名称も内容も知っている人は8.6%、「地域福祉権利擁護事業」は5.2%、「成年後見制度」は16.1%、「市民後見人」は5.7%となっており、今後も周知の必要性があります。
- ・回答者の要介護度については要介護4が31.0%で最も多くなっています。要介護4以上の重度の利用者は全体の56.9%です。
- ・入所施設を選んだのは「家族」との回答が半数を越えて最も多くなっています。
- ・入所施設のサービス全体の満足度については、『満足』との回答が8割を超えています。『不満』との回答は全体の4.0%です。
- ・利用料の負担感については、負担を感じているとの回答は全体の約3割です。
- ・日常生活動作については、すべての項目で4割以上が何らかの介助が必要であると回答しています。家族や他人の言うことが本人に分かるか、については約3割が「分からない」と回答しています。
- ・屋内の移動や外出については、なんらかの介助が必要な人は全体の9割を超え、1日中ベッドや布団にいる状態の人も3割弱みられます。
- ・今後の希望する介護を受ける場所では、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」の希望が59.8%と最も多く、「在宅」との回答は9.8%です。

### 3. 一般高齢者

- ・対象者の属性では、年齢は前期高齢者（65歳～74歳）が約6割、後期高齢者（75歳以上）は約4割となっています。居住年数については20年以上と長期にお住まいの方が8割となっています。
- ・ご家庭の状況については「家族などと同居」が79.5%、ひとり暮らしは18.1%の割合となっています。同居者は配偶者が8割を超え、息子が約3割、娘が2割弱となっています。
- ・住まいで困っていることでは、「玄関回りの階段や段差」（8.0%）、「通気や日当たりが悪い」（7.8%）などの回答が見られます。
- ・高齢者の生活に配慮した公的住宅への入居意向としては、6割弱は今の住宅のままでよいと回答していますが、「今すぐに入居したい」（5.0%）、「今はいいがそのうち入居したい」（18.4%）との回答も見られます。
- ・就労では、「現在働いている」人は全体の4分の1を占め。中でも65～69歳では、4割が回答しています。75歳以上では「働けない」との回答が4割を上回っています。
- ・働きたい理由としては、「生活費が必要だから」が35.6%、「生きがいのため」や「健康のため」といった心身の充実を目的とする回答はそれぞれ約2割の回答となっています。
- ・健康については、ほとんどの高齢者が何かしら気を使っているとの回答をしており、なかでも「食生活に気をつける」では7割を超えています。
- ・健康について知りたいことは「がんや高血圧などの生活習慣病の予防のための日常生活の心得について」が27.3%、「認知症の予防について」が24.7%となっています。
- ・身体機能について、「視力」や「聴力」についてはそれぞれ約4分の1の方が機能低下を感じており、「買い物」については2.3%の人が自分ではいけないと回答しています。
- ・日中、ひとりになること「常時ある」人は全体の27.8%おり、「1週間に何日かある人」と合わせ4割を超えた人がひとりになる可能性があるかと回答しています。
- ・介護が必要になった時の生活では、自宅で暮らし続けたい人は半数を超えています。施設等に入所を希望する割合は16.4%です。
- ・『地域活動に参加している』人は全体の5割弱となっており、参加している人の65.2%は「自治会、町会」に参加しています。
- ・「地域包括支援センター」の名称も内容も知っている人は11.3%、利用経験者もわずか3.9%です。
- ・「成年後見センター福生」の名称も内容も知っている人は14.3%、「地域福祉権利擁護事業」は7.2%、「成年後見制度」は19.6%、「市民後見人」は8.2%となっており、今後も周知の必要性があります。
- ・高齢者福祉や保健に関する情報の入手先についてみると、「広報紙や市のお知らせ」が61.7%、「家族、親族」30.1%となっています。
- ・災害時に「手助けがないと困難だと思う」との回答割合は15.1%となっており、そのうち、身近に手助けをしてくれる人がいない割合は12.2%となっています。
- ・「災害時要援護者登録制度」を知っている人は全体の3割弱、登録も行っていると回答した人は3.9%です。

#### 4. 身体・知的障害者

- ・回答者の属性は、身体、知的障害者ともに「男性」の割合が多くなっており、特に知的障害者では3割強の差があります。年齢では、身体障害者は50歳代～70歳以上にかけての割合が多く、知的障害者では“障害児”（～18歳まで）が29.4%を占めており、中でも「6歳～18歳」が24%と最も多くなっています。
- ・身体障害者の障害種類では、「下肢機能障害」が36.6%で最も多く、また、身体障害に気づいた時期では「60歳以上」が約4分の1を占めて、加齢に伴い発症要因が高まること がうかがえます。知的障害については、「1～9歳」で気づいたという割合が6割近くと なっています。
- ・知的障害者の17.1%が、「発達障害」があると回答しています。
- ・家の中での動作では、身体障害者は「自分でできる」が8割前後以上を占めていますが、 知的障害者では約3割～4割が一部または全部の介助が必要であると回答しています。
- ・外出については、知的障害者の53.5%が「介助者と外出する」と回答しており、外出介 助の必要性が高いことがうかがえます。
- ・就労の状況では、身体障害者の22.1%、知的障害者の29.5%が、「現在働いている」と 答えています。また、「働きたい」と回答した割合は、身体障害者で17.8%、知的障害者 で17.1%となっています。
- ・楽しみや生きがいとしては、身体、知的障害者とも「趣味・娯楽（個人）」を最も多く挙 げています。
- ・今後やってみたいことでは、身体、知的障害者ともに「旅行」が3割台の回答となっ ています。
- ・かかりつけ医については、身体、知的障害者ともにかかりつけ医があるとした回答が圧 倒的に多く、9割台後半の割合となっています。
- ・市で実施している健康診断やがん検診に関しては、身体、知的障害者ともに「受けてい なかった」、「受けていない」という回答が最も多くなっています。
- ・居宅介護（ホームヘルプ）、生活介護（デイサービス）、短期入所（ショートステイ）の 利用状況は、居宅介護と短期入所で知的障害者の1割前後が、生活介護では知的障害者の 6.2%が、それぞれ「現在利用している」と回答しています。また、知的障害者のうち2 割強は現在施設に入所しています。
- ・「成年後見センター福生」、「地域福祉権利擁護事業」、「成年後見制度」の内容まで知っ て いる人の割合は、身体障害者では順に8.8%、4.7%、15.8%となっています。知的障害 者では、順に17.1%、11.6%、29.5%となっています。
- ・今後の「地域福祉権利擁護事業」と「成年後見制度」の利用意向は、身体障害者では順 に18.7%、15%となっています。知的障害者では、順に23.3%、20.9%となっています。
- ・今後、市に期待することとして、身体、知的障害者ともに「障害者に配慮したまちづく り」が最も多くなっています。また、知的障害者では「障害者理解などの啓発活動」、「入 所施設の整備・充実」についても3割強の回答がありました。

- ・災害発生時などで数日間医療機関で受診や治療ができなかった場合、健康上困ることがあるかについては、身体障害者で「困ることがある」が4割強を占め、最も多くなっています。
- ・災害時に避難する際、介助や手助けがないと困難と思う割合は身体障害者で36%、知的障害者では65.1%となっています。さらに、そのうち身近に手助けしてくれる人がいないとする割合は、身体障害者で13.6%、知的障害者で10.7%となっています。
- ・「災害時要援護者登録制度」については、「制度の名称も内容も知らない」と答えた人が身体、知的障害者ともに最も多く、「知っているし、登録もした」は身体障害者、知的障害者で順に6.7%、4.7%となっています。

## 5. 精神障害者

- ・回答者の属性は、男性が6割強で女性よりも多く、年齢では30歳代(28.9%)、50歳代(23.3%)が多くなっています。
- ・家族人数については、1人(本人のみ)が34.4%で最も多くなっています。
- ・精神障害者保健福祉手帳については、「2級」が半数を占めて最も多く、次いで「持っていない」が25.6%となっています。
- ・自立支援医療(精神通院)について、「受けている」が9割を占め多くの方が受給していることが分かります。
- ・初めて具合が悪くなった年齢は「19~29歳」が最も多く、35.6%となっています。
- ・病名では「統合失調症」が6割強と最も多くなっています。
- ・6割強の人が精神・神経科への入院の経験があると回答しています。
- ・日常生活については、「食事」に関して家族に依存する傾向が比較的強いと言えます。部屋の掃除や洗濯、買い物については「自分でやっている」が過半数となっています。
- ・平日の昼間は自分の家で過ごしているという人が過半数となっています。また、「現在働いている」人の割合は13.3%となっていますが、適当な仕事があれば「今後働きたい」との回答が28.9%と、就労意欲がある人が3割弱いると考えられます。
- ・1か月の収入については、「10万円以上20万円未満」が3人に1人で最も多くなっています。収入による生活費の充足感については、「とても足りない」と感じている割合が34.4%と最も多くなっています。
- ・病気のことなどが原因でこれまで不愉快な思いをしたり不利益をこうむったと感じている人の割合は、「たまにあった」37.8%、「頻繁にあった」15.6%となっており、病気や障害への理解の不足など大きな課題がうかがえます。
- ・今後の暮らし方については「家族と同居していきたい」とする回答が43.3%で最も多くなっています。また、今まで実際に住まいを探した経験があると回答した人が6割弱と多くみられますが、その時に困ったこととして、「保証人を頼むのがむずかしかった」と「家賃が高かった」ことが具体的に挙げられています。
- ・生活上の悩みや困ったことを相談する先としては、「家族」が65.6%と最も多く、次いで「友人」(18.9%)が多くなっています。
- ・「成年後見センター福生」、「地域福祉権利擁護事業」、「成年後見制度」の内容まで知っている人の割合は、順に13.3%、6.7%、15.6%となっています。
- ・今後の「地域福祉権利擁護事業」と「成年後見制度」の利用意向は、ともに44.4%となっています。
- ・今後、市に期待することとしては、「通院にかかる交通費助成制度」、「掃除や食事の用意、身の回りの世話など家事を応援してくれるサービス」が多く回答されています。
- ・火災等緊急時に近所で協力してくれる人の有無では、過半数が「いない」としています。また、「災害時要援護者登録制度」については「制度の名称も内容も知らない」と答えた人が4分の3強で最も多く、「知っているし、登録もした」は7.8%となっています。